

みこふとじこ。～剣と  
皿と大根～

豊聡耳斑鳩

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

「暇じゃのう……………」

布都は退屈していた。

む、これは何じゃ……………？

布都が見付けたのは、一冊の日記。

「神子と布都と屠自古の日記……………？」

布都はゆつくりとページを開いていった……………

ある一人の尸解仙が開いた日記。

その中には何が書かれているのだろうか………

# 目次

第一話	朝から居ない	1
第二話	豪族達の暇潰し	14

# 第一話 朝から居ない

「お早う。」

「ああ、お早う。」

布 「何じや、この意味の無さそうな挨拶は」

台所

屠 「お前が適当に挨拶したからだろ」

布 「そうじゃな、いやゝにしても……………」

屠 (少女料理中……………)

布 「太子様が居ない気がするのだが」

屠「ああ、太子ならさっk」

布「うわあああああああああ  
!!!!!!!  
まさか誘拐されたのかあああああああ  
!!!!!!!  
」

屠「違うわボケエ!!」(包丁を飛ばす)

布「うわあつ」(包丁を避ける)

屠「太子なら朝っぱらから出かけてるんだよ!!」

布「そうなのか!?!して何処に!!」

屠「多分、命蓮寺じゃね?」

布「よっしやあツツ!!行くぜオイツツツ!!」

屠「はよ行け」

星「ん、今日もいい天k」

命蓮寺

ナ「主人！客人が!!」

星「え？客人って一人だけじゃないの？」

ナ「その一人かと思われ」

星「じゃあお出迎えしないと」

星「御待ちしております」

布「!？」

星「どうぞこちらに……………」

布「う、うむ。邪魔するぞ」

一「あれ、布都が何で……………」

水（あれが聖人？何か変な髪型をしてるって聞いてたんだけど……………聖の勘違いか）

星「ふう……………」

ナ「主人！また客人が!!」



星「あれ？一人じゃないの？」

ナ「その一人かと思われ」

星「……その一人は案内してるじゃない」

ナ「あ、そっか。じゃあ追い返します？」

星「そうしましょう。」

布「物騒な世の中だな」

聖「御待たせしました……あら？」

布「うわああ!?!出たな、憎き仏教徒め!!」

聖「何故布都さんがここに………?」

布「そうじゃった、我は太子様をs」

聖「神子さんの代わりですか!!失礼致しました!!」

布「いや、そうじゃなくt」

聖「さあさあ、話しましょうか!!」

布「いや、ちよ、おま」

屠「布都遅いな………もう帰ってきてんぞ」

神霊廟

神「お腹空きましたく屠自古く」

屠「もう少し御待ちを。もう直ぐ帰って来るはz」

布「ただいま戻ったぞ………つて太子様!!」

神「布都、お帰りなさい………」(睨み)

布「うつ、そんなに恐い顔をされてどうなされたのですか」

神「ここに座りなさい、布都」

布「へ?な、何故」

神「いいから」

布「いや、しかしなz」

神「座れと言うのが聞こえんのか？ 貴様は」

布「……………」(シユン)

神「さて、座りましたか」

布「はい……………」

神「言いたい事は山程ありますが、簡潔に話しましょう。」

布「ううっ……………」

神「まず一つ目。布都、命蓮寺に行きましたか？」

布「な、何故その事を……まさか、欲を読んど」

神「貴方が先に入ってしまった所為で私が追い返されたんですか」

布「!?まさか、一人の客人というのは……」

神「……何で行ったんですか？」

布「うっ、それは……」

神「……」

布「答えられm」

神「質問に答えろ。」

布「……………太子様を探していたのです。」

神「……………何故？」

布「朝から居なかったので、連れ去られたのかと……………」

屠「最初に出かけてるつったろ……………」

神「そんな簡単に連れ去られていたら仙人になどなれませんよ。」

布「……………」

神「とにかく、今度から私が指示するまでその場所には行ってはいけない事にします。」

布「……………」

神「……………もう一つ」

布「!?」

神「屠自古が折角作ってくれたご飯。冷めちゃいましたよ」

布「それは太子様のお話がな」

神「口答えするな。」

布「……………」(シユン)

神「いいですか?入ってしまったのはいた仕方ありませんが、ご飯の時間には必ず帰る事。」

布「はい……………」

神「門限を破った場合は……どうしようか」

布「……………」

神「……屠自古にチューする事!!」

布・屠「!？」

布「た、太子様それは流石に」

屠「そ、そうだよ!!私の唇は太子のm……誰にも汚されたく無いんだよ!!」

神「ふふっ……………じゃあ布都、私にチューしなさい」

屠「それも駄目だツツ!!」



神（必死になっちゃって……………）

布（屠自古ときす……………）

屠（初めては太子が良かった……………）

屠「布都、絶対帰って来いよ」

布「あたぼうよ！3秒で帰ってきてやる！！」

神「ふふっ……………」

## 第二話 豪族達の暇潰し

布「暇じゃ。」

屠「そうだな。」

神「取り敢えず、何かしましょうか！」

布「して、何をするんですか？」

屠「私は昼寝がいいな」

布「それは我が夜まで寝てしまうから却下じゃ。」

屠「(．．．)」

神「では、修行はどうでしょu」

布「太子様!! 今日だけは息抜きをしましょうぞ!!」

神「いやだから修行はd」

布「嫌です!!」

神「……………チツ」

布「!?(。D)」

屠「太子に舌打ちされてやんのーwwwwm9(。D)プギャー」

布「な、馬鹿にするな!! お主だつて太子様に舌打t」

神「いい加減にしないと怒りますよ……………?」

布・屠「すみませんでした」

神「全く……………まあ、舌打ちした件については謝りません。」

布「!?太子様、別に謝らなくとm」

屠「そうだよ!!コイツが太子の意見を尊重しないか

r」

布「貴様ツツ!!今何と言った!!」

屠「お前が太子の意見を尊重しないから悪いと言ったんだ!!」

布「何だとツツ!?我は太子様を思って今回は休もうと

言うてo」

屠「本当はお前がやりたくないだk」

布「五月蠅い!!我を誰と心得る!!」

屠「古代日本の馬鹿」

布「何だt」

神「戯れは終わりじやツツツ!!」

布・屠「!?。(。D。)」

神「私の意見位で言い争わないで下さい!!見苦しいだけです!!」

布「し、しかし!!」

屠「そうだよ!!」

神「二人が私の事を気遣ってくれるのは嬉しいですが、私への大事な気遣いを忘れてますよ……………」

布「大事な」

屠「気遣い？」

神「私の前で争わない事です。以後気を付けなさい」

布「た、太子様が言うのであれば……………」

屠「し、しょうがねえな……………」

神「私は二人が分かってくれて嬉しいです♪」

布「して、何をするんじや？」

屠「うーん……………」

神「……………」

布「そうじゃ!!最近外の世界で流行っているとされるぼつきいげえむとやらはd」

屠「却下。」

神「面白そうですね、どんなゲームなんですか？」

屠「太子!?(。皿)」

布「ふっふっふ。よくぞ聞いてくれました!!」

屠「はあ……………」

布「ぽつきいげえむとは!!ぽつきいを二人で端から交互に食べていくと言う物じゃ  
!!」

神「えっ、それって最終的にキス」

屠「嫌だからなツツ!!私はツツ!!」

布「面白いらしいから、試しに屠自古と太子様でやって  
みるといい」

屠「え!?(。 ㊦ )お前はしないのか!？」

布「良い良い!!二人ですが良い!!」



神「ほら、布都もああ言ってますし、やりましょ？」

屠「……………はい。」

サクツ……………サクツ……………

屠（ヤバい、どうしよう……………）

屠（私、今太子とキスする事になってんだよな……………!?）

屠（太子はノリノリで食べてるし……………!!）（チラッ

屠（布都は真顔で見てるし……………!!怒りを感じん

ぞ!!）（チラッ

神「あほもうふこひ……………」(訳：後もう少し……………)

屠(はあっ!?)。(。口。)いつの間に食べてるんだよ!?)

屠(というか、私みたいな奴が太子とキスしてもいいのか!?)

屠(布都! 助けてくれ!!) (チラッ)

布「ふぎけんなよ屠自古……………」

屠(自分で勧めた癖に逆恨みしちやってるううう!?)

屠「ひやかかはほはいふ……………」(訳：馬鹿だろアイツ……………)

神「は、ひゃふあい……………」(訳：あ、ヤバい……………)

屠（ゲツ!!もうそこまで来てんじゃんっ!!）

屠（……………というか、何悩んでるんだろう私）

屠（ずっとしたかった夢の一部が今、叶おうとしてるじやないか……………!!）

屠（それを否定してどうする……………!!）

屠（ふふっ、いただきます……………）

布「そおおおおおおおおおおい!!!  
（チヨツプ）」

バキヤツ（ポツキーの折れる音

屠「!?（。皿）」

神「サクサク……………美味しい♪」

屠「何すんだy……………ゲフンゲフン、よくやった!!」

布「む!?感謝されたっ!?。(。D。た)」

屠「このままだと太子を汚す処だった!!」

神「屠自古……………」

屠「何ですk」

神(チュツ)

屠「……………!?  
／／／／／／

布「……………(ゝωゝ#)」

神「ん……………美味しい」

屠「は、え、な、何言って」

神「屠自古、口にチョコがついてましたよ」

屠「へ、あ、え？」

神「こうやって相手の口についている物を食べてあげる  
んでしょ？」

屠「は？いや、本当に何言って」

神「あれ？青娥から聞いたんですけどね……………」

屠（あの邪仙……………!!よくやった!!）

神「違うんですか？」（天然）

屠「あ、え……………そうなんです!!蘇我家では誰もがそうしてましたツツ!!」

布「嘘吐き」

神「良かった……………」

屠「……………でゆふふ（\*、ω、\*）」

布「カーツ、気持ち悪い!!やだオメエ!!」（悟空風）

屠「あ、あ、あ?（#。∩。）」

布「すみませんでした」

神（意外と柔らかい……………）

屠「で、何するんだよ」

神「あのポッキーゲームでだいぶ時間を潰せましたね」

布「そうですね!!」

神「うーん、何しよu」

?「ふふふ……………話は聞かせて貰いましたよ」

一同「!?（。D。）」

青「暇なんですってね?私が案を出してあげますわ♪」

一同（ヤバい奴が来ちやったよ………!!）

屠「あー、あー………いらっしやい」

布「直ぐ茶を用意する、粗茶で宜しいか？」

青「あ、いえ水で」

布「相分かった」（水を注ぎに行く）

神「………で、案とは？」

青「ふふっ、案とは!!」

神・屠「ゴクリ………」

青「王様ゲえええええええええええええええええええええええム!!」



屠 「また嫌なやつ来ちやったよコレ」

神 「人にあまり命令はしたく無いのですが……………」

青 「あ、そういう時は簡単な命令でいいですよ!!」

神 「いやだから命令したくn」

青 「さあ!!丁度布都さんも戻って来た処ですし!!やりましょう!!」

布 「何故分かったんだ……………」

布 「何故芳香殿も居る」

芳 「我々は誇り高き戦士（キヨンシー）だからな!!」

青「人数が少ないかと思って♪」

屠「王様だくれだ」

一同「……………」

布「我じゃなっ!!」

屠「よりもよって布都かよ」

芳「あるあるだな!!」

屠「元気いいな」

布「では……………そうだな」

布「3番が王様にキスをする!!」

一同「!?。(。D。)」

布（ふっふっふ……皆ふざけんなよ!!とか思っておるであろう。しかし、私の狙いはただ一人）

神「えっと……私は……」

布（太子様だけだっ!!）

布（しかも、私の能力で私の立っている所の運を上げておる!!）

※風水の力はそう使う物ではありません

布（さあ、太子様は何番だっ……!!）



芳「優しくしてね（／＼／＼ω／＼／＼）♪」

布「誰がするかあああああ  
!!!!」（ぶっちゅうう）

芳「あん、激しい♪」

布「止めろ気持ち悪い」

屠（R指定になってもおかしくないシーンだったな……………）

青「次行きますわよー!!」

神「王様だくれだ♪」

一同「……………」

青「私ですわね♪」

布「む、青娥殿か」

芳「頑張れよ!!」

青「じゃあ、布都さんが芳香に愛の告白♪」

布「はあっ!? (。Д。) 名前指定有りなのか!?!」

青「私が決めましたので♪」

芳「またか…………… (／／／ω／／／) ♪」

布「呪ってやる……………」

青「ではスタートツツ!!」

芳「ワクワク(。▽。\*)(\*。▽。)」

布「……………芳香殿」

芳「なあに……………？」(キラキラ)

布「……………好きだ、付き合ってくれ」

芳「はい……………(／／／ω／／／)♪」

青「終了!!全然トキメキませんでしたわ……………」

布「知るかツツ!!我は勝手にやらされてるだけだから  
なツツツツ!!」

芳「せーがー」

青「なーにー?」

芳「私、布都のお嫁さんになりたい……………♪」(ポツ

布「!? (。Д。)」

屠「次々」

芳「王様だくれだ!!」

一同「……………」

芳「私だな!!」

布(ウゲツ……………)



芳「じゃあ〜」

布（頼む！我だけは止めてくれッッッッ！！！！）

芳「神子が屠自古に愛の告白〜」

神・屠「!?（。㊦。）」

青「あら〜、芳香ったら〜♪マセてるわね〜♪」

布（青娥殿がやる事リストに書いたな……………!!）

屠（私、どうなるの……………!?（。㊦。）」

青「ではスタートッッ!!」

神「……………」(フツ)

屠(た、太子の目の色が変わった……………?!? (。D。))

神「屠自古……………」

屠「は、はい……………」

神「君の事が好きだ……………愛おしい程に」

屠「!?(。D。)」

神「生前からずっと好きだった……………」(屠自古の頬に手をやる)

屠「や、ちよ、まっ」

神「このまま他の男に渡してしまう位なら……」

屠「……………」

神「私の物にしてやろう……………」

屠「……………」

芳「屠自古固まってるないか？」

神「……………愛してる、大好きだ」

屠「……………」

神（スッ

屠（ち、近い……………♪）

青「……………」

布「あれ？青娥殿（∩・▽・∩）？」

神「……………」（妖艶な笑み

青「……………はっ!?Σ（。∩。〃）し、終了!!終了!!」

芳「何故二回言ったし」

神「はあく……………緊張しましたあく……………」

布「太子様、流石でしたぞぞ!!（\*≡▽≡\*）」

神「ふふっ、ありがとう♪」

芳「誰も屠自古に触れない」

屠「た、太子いゝ……………（／／／▽／／／）」

芳「ダメだこりゃ」

屠「えへ、えへ、えへへ……………」

青「つい見とれてしまいましたわ……………」

芳「私は布都の告白が好きだぞ（／／／ω／／／）♪」

布「止めろ気持ち悪い」

布「王様だくれだ……………」

一同「……………」

神「私ですわね」

青「豊聡耳様ですか……………ワクワク。(。▽。\*(。\*(。▽。)」

芳「屠自古々、大丈夫か々々？」

屠「えへ、えへ、えへへへ……………」

神「では、皆が王様を……………」

一同「？」

神「これからも支えていく事♪」

青「そ、壮大ですわ……………」

芳「勿論だ!!」

布「支えて行きますぞー!!」

屠「う、うん………!!」

神「では、最後に屠自古!!」

屠「え?」

神「何か命令してください♪」

屠（えええ!!。(。皿) 太子に!?!私に!?)

布「一言でも太子様に命令すると………」  
（皿を構える）

芳「きゃーこわーい」

屠「じゃ、じゃあ太子が私とえっ「政治について語り合う事」

屠「!?（。 ㊦）」

布（えっちななどその気になっていたお前の姿はお笑いだったよ）（パラガス風

布（セリフを変えさせて貰った!!）

神「いいですよ（\*≡▽≡\*）何話します?」

屠「…………お任せで」

神「いや、こんな話久々に語りましたよ（\*≡▽≡\*）」（ツヤツヤ



屠「もう嫌だ……………」

神「また語りましょうね♪」

屠「えええ!!? ( ( ; ㇿ。 ) ) 」

芳「屠自古のライフが削られていく」

青「意外と……………面白い」

神「あら、もうこんな時間」

布「布教をしなければ!!」

神「いや、広める気は無いのでいいですよ」

布「いえいえ!!しなければ我が国は強くなりませ  
ん!!」

神「だからいいつて」

布「いざ!!神霊廟!!」

芳「鎌倉じゃなくて?」(「いざ鎌倉」の事)

布「ぱろでいという奴じゃ!!」

芳「ふうん。」

布「いざ!!神霊廟!!」(本日二回目)

おまけ

屠「はあっはあっ……………」

屠「何だったんだ……………あの王様ゲーム……………」

屠「太子が私に愛の告白とか……………誰得だよ……………」

屠「はい、私ですね（笑）」

屠「あああああ!!!もう太子しか愛せなくなつたじ  
やんかあああああ!!!」

屠「何なんだよ!!あの不意討ち!!」

屠「最後の笑顔とか完全に私得なんだけど!!!」

青（独り言でかつ……………）